

データ管理計画（DMP: Data Management Plan）作成 支援ツールの開発とその機能拡張の可能性

尾城孝一¹⁾，常川真央²⁾，山地一禎³⁾

1)³⁾国立情報学研究所，2)千葉大学アカデミックリンクセンター

データ管理計画（DMP: Data Management Plan）は、「研究プロジェクト等における研究データの取り扱いを定めるものであり，具体的にはデータの種類，フォーマット，アクセス及び共有のための方針，研究成果の保管に関する計画などについて記載されるもの」と定義される。DMPに明記すべき情報としては，①管理上のデータ，②データ収集，③文書化とメタデータ，④倫理と法令遵守，⑤保管とバックアップ，⑥選定と保存，⑦データ共有，⑧責任とリソース，などが挙げられる。また，DMPは研究を始める前に作成すれば終わりではなく，研究中にも必要に応じて計画の修正を行うことが必要である。絶えず計画の更新を行うことにより，その計画はより実践的で，有効性のあるものとなる。DMPは，まさに研究データ管理の指針であり，適切なデータ管理にとって必要不可欠な文書である。

近年，海外の主要な研究資金配分機関は，研究資金申請時にDMPの提出を義務化している。日本でも，科学技術振興機構（JST）や日本医療研究開発機構（AMED）がDMPの提出を要請する方針を打ち出している。

こうした流れを受け，海外では，DMPの作成を支援するための数多くのツールが開発されている。例えば，英国のデジタル・キュレーション・センターのDMPOnlineやカリフォルニア大学キュレーション・センターのDMPToolなどが代表的なツールであるが，両センターは，2つのツールをDMPRoadmapとして統合するための開発を進めている。DMPRoadmapはオープンソースとして公開され，次の5つの基本機能を備えている。

- ①データ管理計画の作成を支援し，管理を行う。
- ②データ管理上の諸問題と研究助成機関が求める管理計画要件に対処するための有益なガイダンスを提供する。
- ③データ管理計画を様々なフォーマットで出力する。
- ④データ管理計画の作成を共同作業で行う。
- ⑤データ管理計画の各種情報をプログラムから操作するための外部APIを提供する。

以上のような動向を踏まえ，国立情報学研究所（NII）は，国内の研究資金配分機関や研究機関からの要請に応えうるDMP作成支援ツールの開発に着手し，その第一歩としてDMPRoadmapの日本語化を行った。

本発表では，NIIが国内外の関連組織と連携して，開発を進めている日本語版DMPRoadmapの概要とその試用評価を紹介するとともに，今後の機能拡張の可能性についても触れる。